

産総研と地域企業

産業振興で連携



セルジエンテック

53

酵素正常化

遺伝子の欠損または変異によって、体の働きをつかさどる酵素やたんぱく質を作り出せない、または作り出しても酵素やたんぱく質が働かないことが原因の難病や希少疾患がある。代表的な疾患に、血液を固める因子が作れない血友病や異物を処理する酵素が作れなく質の持続的な補充を

セルジエンテックは、(千葉市中央区)は、期待されることも、寿命も約10年と長い質の遺伝子を導入され、治療目的たんぱく質の遺伝子を導入され、正常たんぱく質を持つ治療目的たんぱく質を持続的に分泌することが期待される再生医療等製品である。

遺伝子組み換えヒト脂肪細胞

難病治療薬開発を下支え

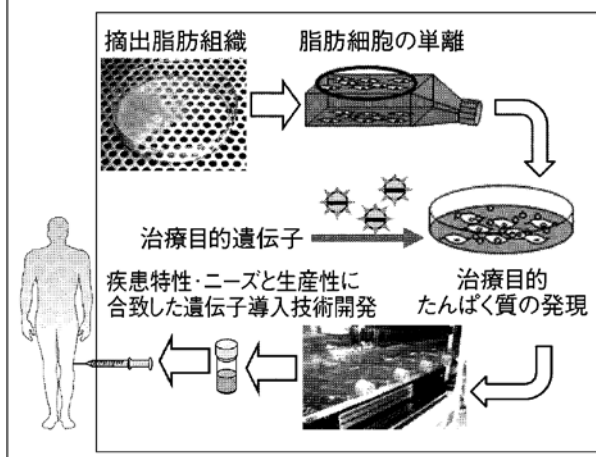
実現する、再生医療・遺伝子治療の面から難病克服に取り組んでい

安定効率製造

脂肪細胞は、がん化リスクが低く安全性が

皮下から抽出した皮下脂肪組織から高純度の製造法は当社と千葉大学が確立した。用い、安全性を確保した遺伝子導入工程を経、安定・効率的な遺伝子導入技術を開発し、現在、HDLコレステロールの欠損症治療用のLCAT遺伝子導入ヒト脂肪細胞医薬品の開発に取り組んでいる。千葉大学で再生医療等安全性確保法の下、第一種再生医療臨床研究が今年8月に承認され、今年10月に政府認定された。この特区は治療実施する予定である。またその技術の汎用性を活かし、血友病やライソゾーム病など難病の治療にも展開する予定である。

再生医療・遺伝子治療による難病治療



臨床研究へ

現在、HDLコレステ

テロール(善玉コレステロール)を増やすレシチン・コレステロールアシルトランスフェラーゼ(LCAT)の欠損症治療用のLCAT遺伝子導入ヒト脂肪細胞医薬品の開発に

産総研生命工学領域研究
戦略部イノベーション
コーディネータ
新聞 陽一

一言メッセージ

ライソゾーム病などに対して酵素補充療法を中心に研究していたので、2012年に遺伝子治療の提案を受けた時、夢のような話だと思った。翌年から共同研究を開始し、今やその夢は現実のものとなりつつある。今後の展開に期待している。

LCAT欠損症治療に用いられるLCAT欠損症治療用遺伝子導入ヒト脂肪細胞の実用化課題は、今後、対象疾患の特性や治療ニーズに応じた遺伝子導入技術や移植方法が選択され、今年10月に政府認定された。この特区は治療実研究が進められる。産総研の遺伝子導入技術に「触れることは、遺伝子」として筑波大学、産総研、エーザイとも、新用化にとって有益である。(セルジエンテック社長・麻生雅是)

(木曜日に掲載)